

学校教育		
学年	学ぶこと	読むとき注意すること
1年	◆文の終わりの「。」。◆「は」「が」「を」「へ」の使い方。◆「です」「ます」の使い方。	◆違いを考えて読もう。
2年	◆気持ちや様子を表す言葉(ような・みたいな)。◆よく分かるように示す(いつ・どこで・だれと・どのように)。◆反対言葉。◆文章を書くときの句読点と鉤括弧。★カタカナで書く。◆反対、仲間の漢字。◆音を表す言葉(擬声語・擬態語)。	◆順序に気をつけて。順序を思い出して。◆様子や気持ちを考えて。◆反対言葉。◆様子や気持ちを思い浮かべて。◆大事なところ。
3年	◆漢字の音と訓。◆国語辞典の使い方。◆詳しくする言葉(修飾語)。◆へんとつくり。◆反対の意味の漢字。◆主語、述語、修飾語。◆慣用句。	◆事柄を読み取る。◆筋道を調べる。◆中心点をとらえる。◆気持ちをつかむ。◆表現。
4年	◆漢字辞典の使い方。◆比喻。◆漢字の組み立て。◆文の関係→つなぎの言葉。「です」「ます」。◆カタカナの使い方。◆ローマ字。	◆詩の楽しみを味わう。◆文脈をたどる。◆中心点をとらえる。◆段落に気をつける。◆内容を読み取る。◆様子をとらえる。◆行動をとらえる。◆気持ちを読み取る。◆場面をとらえる。◆組み立てを考える(作文)。◆中心をはっきりさせる(作文)。◆想像しながら読み取る。
5年	◆文と文の接続。◆指し示す言葉。◆口語文と文語文。◆「れる」「られる」。◆熟語の組み立て方。◆複合語(「とぶ」「上がる」)。◆送りがな。	◆詩を楽しむ。◆文脈をたどる。◆要点をとらえる。◆段落を分ける。◆内容を読み取る。◆要旨をつかむ。◆情景をとらえる。◆行動をとらえる。◆心情をとらえる。◆場面をとらえる。◆主題をつかむ。◆組み立てを考える。◆言葉の使い方。
6年	◆接続語の働き。◆文のつながり。◆段落の関係(そして・だが)。◆「せる」「させる」。◆文語の文章。◆熟語の構成。◆熟語の音と訓。◆文の構造→連体修飾語による複文(「初雪が降った山が白く光っている」)。◆意味を付け加える言葉(まで・しか・まで・も・ばかり)。◆敬語の使い方。	

日本語教育(サンプル)			
年少	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本人の先生に絵本を読んでもらう。◆絵本のトピックに関連したアクティビティを通して体を動かしながら日本語に親しむ。 ◆日本語の指示を聞いてその動作ができる。 ◆日本語の歌に合わせて体を動かす。◆リズムに合わせて挨拶をする。◆パズルを通して文字に親しむ。 	低・高学年	<ul style="list-style-type: none"> ◆単語を増やす。◆色々な会話表現を覚える。 ◆簡単なやり取りを正しい文章とする。◆簡単な質問を自分からできるようにする。◆本の読み聞かせを楽しむ。◆積極的に自分から話す。 ◆簡単な単語を読めるようにする。◆簡単な文章を書き写す。
年中	<ul style="list-style-type: none"> ◆歌や身体を使ってのアクティビティを通し日本語を学ぶ。◆日本語の指示を聞いてその動作ができる。◆単語を聞いて上手に真似る。◆簡単な挨拶や質問に答えられる。◆日本語のリズムと音になれる。◆発音やイントネーションを練習する。◆ひらがなに親しむ。 	高学年I	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本語の指示を理解し、指示に従って動作ができる。◆単語を正確な発音、イントネーションで言える。◆日本語を聞いて理解し、文章で答えができる。生徒が各々個人で受け答えができるようになる。
年長	<ul style="list-style-type: none"> ◆歌や身体を使ってのアクティビティを通し日本語を学ぶ。◆簡単な挨拶や質問に答えられる。◆日本語のリズムと音になれる。◆異なったトピックで単語や表現の定着を目指す。◆カタカナに親しむ。 	高学年II	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本語の指示を理解し、指示に従って動作ができる。◆文章の意味内容を理解した上で簡単な文章で受け答えができるようにする。◆簡単な単語、文章が書ける。◆単語を増やす。
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本語の指示を理解し、指示に従って動作ができる。◆身近な単語を覚える。◆文章の組み立てになじむ。◆簡単な挨拶や日本語でのやり取りの範囲を広げる。◆単語を正しく発音できるように練習する。◆ひらがな、カタカナを正しい筆順で書き写す。◆発音練習をしながら読み書きの準備をする。 	高学年III	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本語の指示を理解し、指示に従って動作ができる。◆自分から積極的に日本語を話すようにする。◆単語、文章を正しくきれいに書く。 ◆簡単なお話を書く練習を始める。

日本語能力試験 認定基準	
4級	初歩的な文法・漢字(100字程度)・語彙(800語程度)を習得し、簡単な会話ができ、平易な文、又は短い文章が読み書きできる能力(日本語を150時間程度学習し、初級日本語コース前半を修了したレベル)
3級	基本的な文法・漢字(300字程度)・語彙(1,500語程度)を習得し、日常生活に役立つ会話ができ、簡単な文章が読み書きできる能力(日本語を300時間程度学習し、初級日本語コースを修了したレベル)
2級	やや高度の文法・漢字(1,000字程度)・語彙(6,000語程度)を習得し、一般的なことからについて、会話ができ、読み書きできる能力(日本語を600時間程度学習し、中級日本語コースを修了したレベル)
1級	高度の文法・漢字(2,000字程度)・語彙(10,000語程度)を習得し、社会生活をする上で必要な、総合的な日本語能力(日本語を900時間程度学習したレベル)

基本語について

一、幼児のことはを一覧にしてあります。あくまで、参考のために掲げるものです。
 一、絶対語感のもとになることは、家庭によって同じではありません。ここにあげてあるのは、標準的な環境で覚えておいてほしいことばです。ひとつの目安です。これだけ、とか、これではなくてはいけない、というものではありません。
 一、なるべく数をすくなくしました。三三四語です。だいたいアイウエオ順にならんでいきます。

【動くことば一四〇語】

あがる	あける	あげる	あそぶ	ある	あるく
いう	いく	いる	うく	うごく	おこす
おす	おとす	おりる	かえす	かえる	かく
かくれる	かぞえる	かたづける	かつ	かりる	きく
きらう	きる	くむ	くる	けす	けずる
ける	ころぶ	こわす	さがる	さく	さけぶ
さける	さす	さわる	しかる	しずむ	しめる
しる	すう	すえる	すすむ	すてる	ゝする
せめる	だく	たす	たたく	たたむ	たつ
たのむ	つかう	つく	つくる	つける	つなぐ
つむ	てつだう	とおる	とまる	とめる	とらえる
とる	ない	ながれる	なく	なげる	ならべる
なる	にげる	にらむ	にる	ぬく	ぬける
ぬる	ぬれる	ねだる	ねむる	ねる	のこす
のぞく	のぼす	のびる	のぼる	のる	はいる
はう	はえる	はく	はこぶ	はさむ	はしる
はなす	はねる	はる	ひかる	ひく	ひらく
ひろう	ひろげる	ふえる	ふく	ふむ	ふる
へる	ほうる	ほめる	まく	まける	ます
まつ	まねる	まもる	まわす	みせる	みる
むかう	むく	もえる	もつ	もらう	もる
やく	やすむ	やむ	やる	ゆく	ゆれる
よむ	よろこぶ	わかす	わかれる	わかる	わすれる
わたす	わる				

【名詞八七語】

あめ	いぬ	うし	うま	うみ	いし
いと	いも	おかず	おちや	おやつ	えほん
エスカレータ	エレベータ	おとこ	おんな	かいもの	かけっこ
かし	かせ	がっこう	かべ	からす	ガラス

からだ	かわき	きかい	ぎゆうにゆうくつ	くも
ゲーム	げんかん	こえ	ごちそう	さかな
さら	じゆうたん	しょうゆ	すずめ	そら
だいどころ	たまご	ちやわん	つき	て
テーブル	テレビ	てんき	でんき	てんじよう
でんわ	ところ	とり	ナイフ	にく
にわ	ねこ	ねずみ	はし	はと
はな	パン	ひこうき	ひも	ひる
フオーク	ふる	ほし	ほん	みず
みち	やきい	やね	ゆか	ゆき
やま	よる			ゆび

【形容詞一七語】

あかい	あかるい	あまい	うまい	えらい	おいしい
かたい	からい	きれい	しかくい	すっぱい	しろい
とおい	にがい	ひくい	ひろい	まるい	

【対になることは四〇語(二〇組)】

あつい・つめたい	あつい・さむい	あつい・うすい
うえ・した	うそ・ほんと	うち・そと
うら・おもて	おおい・ちいさい	しずか・うるさい
しっている・しらない	たかい・ひくい	たくさん・すこし
だめ・よい(いい)	とおい・ちかい	できる・できない
はやく・ゆっくり	はやい・おそい	ひろい・せまい
みぎ・ひだり	やすい・たかい	

【慣用のごとば五〇語】

あかちゃん	あした	あそこ	あちら	いいえ	いくつ
いくら	いただきます	いちど	いっせ	いつ	いつも
うん(はい)	おはよう	おかあさん	おじいさん	おじさん	ここ(で)
こちら	ごめんなさい	すぐ	こんや	さつき	さようなら
してください		すぐ	すぐ	すこし	すっかり
そうです	そう(う)して	それ	それから	だれ	どうして
どうする	どこ	どちら	どんなに	なぜ	など
なにか	なんか	はい			
ほくがはしる		ほくははしる		ほくもはしる	
ほくがいぬにえきをやる		ほくはうちにいる			
ほくはそこへいく		みんなとはしる			
みんなではしる					

外山滋比古『わが子に伝える「絶対語感」』飛鳥新社より